

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成23年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。
 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたい事を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来る事を見つけて伸ばし、自分にも出来る事があると気付いてもらう)でありたい。
 ・十人十色のサービスが出来るグループホーム。
 ・明るい環境で、いつでも笑い声が聞こえてくる、家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中にある当ホームは、利用者日々の暮らしを「ゆったり、のんびり」支えることを理念に掲げ、実践するよう努めている。職員は一緒に笑って過ごすことができるよう、利用者のことを常に中心に考えている。また、管理者がケアの現場におり、職員と気負わず話し合える信頼関係が築かれている。利用者の重度化が進む中で、可能な限り安心して暮らせる支援を継続しており、協力医療機関との終末期の支援も含め、利用者や家族が安心して利用できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム優瑠里
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	浅野清美
評価完了日	平成23年 2月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、利用者の日々の暮らしを支えている。 スタッフ会議で理念について話し合い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設当時からの理念を玄関、各ユニットのスタッフルームに提示している。毎月のスタッフ会議で利用者との日々の暮らしを大切にしたい理念を共有し、ケアの実践に繋げている。また、理念が書かれたホームのTシャツを作り、意識して日々の業務に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や小学校の行事に参加し、交流している。地区の老人会長、自治会長に運営推進委員になって頂いている。ホーム行事の際には、老人会や高校生、中学生にボランティアとして参加してもらっている。外出時の挨拶、行事の際に声掛けし、近所付き合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じて地域の人達に季節の行事や防災、避難訓練に参加してもらうなど、地域との繋がりを大切にしている。ホーム主催の夏祭りには老人会の方より、テングサを分けてもらいところてんを作ったり、近隣の方やボランティアグループ、婦人会、高校生等の協力があり、200名程の参加で賑わった。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 行事の際、老人会や婦人会、高校生にボランティアとして参加してもらい、入居者との交流の中で認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。小、中学生の福祉体験や職場体験の受け入れを行っている。 老人会を中心とした、認知症の勉強会を開いた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催しており、事業所内での取り組みや活動を報告し、意見交換を行っている。職員には、スタッフ会議で報告し、出された意見や要望を話し合い、改善に生かしている。	
			(外部評価) 会議は定期的開催し、ホームの活動報告や行事開催のお知らせなどしている。事業所の催し物と同時開催し、利用者との楽しい時間を過ごしてもらったり、委員からの意見を得る努力をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に行政の方にも参加してもらっている。支援困難事例や事故報告等を随時報告、相談し意見をもらっている。 市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や行政の指導を受け、サービスの向上に生かしている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して困難事例の相談やグループホーム連絡会の開催のお知らせがある。要介護認定更新の機会など、利用者の暮らしぶりや具体的なニーズを伝え連携を深めている。また、さわやか相談員の定期的な訪問があり、意見交換や利用者の相談に応じるなどしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束等の排除のための取り組みに関する理念及び方針を施設内に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。 玄関は、夜間帯を除き常に解放されている。	
			(外部評価) 管理者、職員ともに身体拘束のないケアに全力で取り組んでいる。玄関の鍵は、夜間の時間帯のみ施錠を行っている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり一緒について行くなど、見守りのケアを実践している。また、日々の業務の中で言葉で拘束することがないように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で知らせ合っている。スタッフ会議の議題として、学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 研修等で学ぶ機会がある。研修参加者は、スタッフ会議時に研修内容を報告し、職員全体で学んでいる。制度利用の入居者がおり、制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には2名以上の職員が立ち会い、理解しやすい説明を行っている。重要事項説明書により、利用料金、職員体制、その他細かな説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議等で要望や意見を聞いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。出された意見は、スタッフ会議で検討している。 (外部評価) 家族の来所時や通院時等に、利用者の様子やホームの状況を伝え、要望や意見を聞くようにしている。また、運営推進会議を事業所の行事と組み合わせるようにして家族が発言しやすい環境を整えている。出された意見や要望はスタッフ会議で話し合い、運営に反映させるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月、スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。改善活動グループに全員が参加し、それぞれの取り組みや活動報告を行っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は共に介護に携わっており、職員と話し合う時間や場面が多くコミュニケーションが良くとれている。月1回の関係事業所との合同スタッフ会議には、経営者と職員全体が参加し研修報告や意見交換が行われている。より良い運営ができるよう全員で取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入がある他、各資格手当の支給がある。経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者が、毎日顔を出し、職員の意見を直接聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。 職員相互研修に参加し、他施設に研修に出掛けたり、実習生の受け入れを行っており、他施設の良い所を取り入れている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前の面談でご本人の思いを十分に伺い、ケアプランを作成し、ご本人の思いを生かしながら、日常生活の支援をおこなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強いすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用デイサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側の意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 一緒に作業したり、楽しむ事で得意分野が発揮できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に、こまめに連絡を入れ、情報の共有に勤めている。 受診同行や外出、ご本人との関わりの中で、職員と一緒にご本人を支える役割を持ってもらい、関わってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) センター方式への記入をご家族にお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も継続できるようにしている。馴染みの美容院や医院への外出の支援を行ったり、自宅への外出や外泊の援助をおこなっている。 (外部評価) 以前からのかかりつけ医の受診や、美容室の利用等は家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。また、併設のデイ利用者との新しい馴染みができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に活動できる作業を用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちする事で関係を調整し、支援している。その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への住み替えの際には、関係者に、本人の状況、情報を細かく伝え、ご家族にも十分な支援をお願いした。転居後も面会し、他施設との連携を図った。ターミナルケアにて、亡くなられた利用者のご家族が、お墓まいりの度に立ち寄って下さる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。又、表情や行動から汲み取り把握に努めている。 (外部評価) センター方式を取り入れ、利用者の望む生活に関する細かな情報も得よう努めている。面会時等に家族から聞き取ったり、利用者に関わる時間を大切にし、一対一の介護現場で利用者の思いや希望を聞き取っている。把握した内容は、「申し送りノート」に記入し、全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人の話やご家族の話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残り把握に努めている。関わりの中での気づきをセンター方式のシートに記入したり、申し送りし情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントを行っている。定期的なユニット会議を行い職員全員で検討して介護計画を作成している。完成した介護計画は、家族に説明し同意をもらっている。月1回のモニタリングで状況を確認するとともに、現状に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、会議等で情報を共有、記録し実践や介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。本人の要望等を配慮し、職員が馴染みの病院への受診を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民政委員、ボランティアの方々に運営推進委員になってもらい行事の際には、協力がある。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をもらっている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職 員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往 診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらって いる。 協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望す れば診てもらえる体制がある。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診してお り、通院は家族対応としているが、必要に応じて職員 が対応することもある。利用者の急変時に管理者、職 員は救急車の依頼や家族連絡、準備等、慌てずに確実 かつ適切な行動がとれるよう努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連 携相談を行っている。利用者には状況の変化がある際 には、随時対応できる体制がある。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相 談しながら、医療機関に提供している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得 て、医師及び医療機関と連携し対応している。 ご家族の希望により、ホームにて4名の看取りの経験 がある。</p> <p>(外部評価) 重度化、終末期のケアに対して指針を明文化してお り、マニュアルを整備し、協力医療機関や家族と連携 を図りながら支援する体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の普通救命講習に職員全員が参加している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に業所独自で避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。今後は、施設からの地域貢献についても取組んでいきたい。 (外部評価) スプリンクラーの設置や緊急連絡網の整備もされ、消防署指導のもと防災避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を活用して近隣の方と共に訓練を実施できるような協力体制を築いている。また、災害時にはホームを地域の避難場所として提供できることを話している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、誇りを大切に丁寧な言葉かけで対応している。ご家族の了解を得て、ご本人が、長年慣れ親しんだ呼び名で呼ぶ事により、ご本人の心に寄り添い、ご本人の第二の我が家となる様に心がけている。 人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事が無い様に、配慮している。 (外部評価) 利用者の立場に立って、一人ひとりの気持ちを大切に誇りやプライバシーを損ねないよう気配りをしている。利用者の居室に入室する際には、利用者に声かけを行い、断ってから入室するよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人に相談したり、希望を聞いている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力を把握し、その日の体調や気分に合わせて出来る事の支援を行っている。得意な事が生かせるような支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの理容、美容店のある人は、職員が外出の支援を行っている。要望があれば、出張美容店の訪問をしてもらっている。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、出来る人に声掛けし、一緒に料理してもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。 (外部評価) 職員が会話のきっかけづくりや話題を提供し、利用者同志が楽しく食事ができるよう雰囲気づくりがされている。支援の必要な利用者には、職員が横に座りゆっくり、やさしく声かけがされている。台拭きや下膳をできる利用者には無理のないよう、職員が見守りながら行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を定期的に保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパットで過ごされている方もおられる。改善活動として排泄班があり、それぞれの課題解決に取り組んでいる。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握している。トイレでの排泄がスムーズに行えるようマニュアルを作成し職員間で情報交換を行い、一人ひとりに応じた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、好みの飲み物を勧めている。トイレでは、身長に合わせた足台を置く事で力みやすい姿勢で排泄してもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する曜日や時間に入浴してもらっている。身長に合わせた手作り補助具により、安定した姿勢で入浴出来ている。改善活動として入浴班があり、一人ひとりの入浴マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて毎日、入浴できるような体制を整えている。安全に入浴が行えるようマニュアルを整備し、職員全体で把握している。入浴を拒む方には声かけや対応を工夫し、利用者のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、ゆっくりした時間をすごして頂き休息できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして、畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい、気分転換や楽しみの支援を行っている。感謝の気持ちを伝える事で、やりがいを感じられている。月毎の誕生日会、季節の行事を各担当者が計画、実施し、入居者全員の交流や楽しみとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
			(外部評価) 通院帰りに買い物に寄ったり、季節の行事を企画して外出する機会を作っている。外出が困難な利用者には、ホーム周辺で外気浴をしたり、近くの公園に散歩に行く等、利用者の身体状況に配慮した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の財布からお金を出す機会を作り支援している。 預かり金については、金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話が出来る声掛けや雰囲気作りの支援をしている。手紙や贈り物を頂いた際には、お礼の電話や手紙を書く援助をしている。 毎年、ご本人の写真入りの年賀状をご家族、知人に送る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、畳みのスペースにはコタツがあり、利用者は好みの場所で過ごす事ができる。台所からも見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取れる。壁面の飾りを手作りし季節感をだしている。	
			(外部評価) リビングには畳コーナーを設けており、利用者が寛ぐことができる。入居者は、大半の時間をリビングで過ごし、テレビを見たり談笑している。季節の飾りが飾られ、金魚やメダカを飼育し鑑賞することができる等、和みのある雰囲気づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士でコタツに入ったり、ソファに座りくつろげる工夫をしている。椅子の配置を替え、台所に移動してもらったり、マッサージチェアを利用し、独りになれる空間を作っている。食事のテーブルでは花や絵を目隠しかわりとし、配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が家庭で使用していた馴染みの家具やテレビを持ち込んでおり、配置や飾り付けもそれぞれが好みの物になっている。ご家族の写真が飾られている。	
			(外部評価) 備え付けのエアコンや洗面台が設置され、利用者の使い慣れたタンスやテレビ、仏壇等が持ち込まれている。壁には、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真等が飾られていて、居心地良く過ごしている様子が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を掲げ、混乱や間違いの無いようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成23年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。
 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたい事を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来る事を見つけて伸ばし、自分にも出来る事があると気付いてもらう)でありたい。
 ・十人十色のサービスが出来るグループホーム。
 ・明るい環境で、いつでも笑い声が聞こえてくる、家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中にある当ホームは、利用者日々の暮らしを「ゆったり、のんびり」支えることを理念に掲げ、実践するよう努めている。職員は一緒に笑って過ごすことができるよう、利用者のことを常に中心に考えている。また、管理者がケアの現場におり、職員と気負わず話し合える信頼関係が築かれている。利用者の重度化が進む中で、可能な限り安心して暮らせる支援を継続しており、協力医療機関との終末期の支援も含め、利用者や家族が安心して利用できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優瑠里

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)
氏名 浅野清美

評価完了日 平成23年 2月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、利用者の日々の暮らしを支えている。スタッフ会議等でも理念について話し合い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設当時からの理念を玄関、各ユニットのスタッフルームに提示している。毎月のスタッフ会議で利用者との日々の暮らしを大切にしたい理念を共有し、ケアの実践に繋げている。また、理念が書かれたホームのTシャツを作り、意識して日々の業務に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や小学校の行事に参加し、交流している。地区の老人会長、自治会長に運営推進委員になって頂いている。ホーム行事の際には、老人会や高校生、中学生にボランティアとして参加してもらっている。外出時の挨拶、行事の際に声掛けし、近所付き合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じて地域の人達に季節の行事や防災、避難訓練に参加してもらうなど、地域との繋がりを大切にしている。ホーム主催の夏祭りには老人会の方より、テングサを分けてもらいところてんを作ったり、近隣の方やボランティアグループ、婦人会、高校生等の協力があり、200名程の参加で賑わった。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 行事の際、老人会や婦人会、高校生、中学生にボランティアとして参加してもらい、入居者との交流の中で認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。小、中学生の福祉体験や職場体験の受け入れを行っている。運営推進委員や老人会の方々を対象とした、認知症学習会を実施した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催しており、事業所内での取り組みや活動を報告し、意見交換を行っている。職員には、スタッフ会議で報告し、出された意見や要望を話し合い、改善に生かしている。	
			(外部評価) 会議は定期的開催し、ホームの活動報告や行事開催のお知らせなどしている。事業所の催し物と同時開催し、利用者との楽しい時間を過ごしてもらったり、委員からの意見を得る努力をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に行政の方にも参加してもらっている。支援困難事例や事故報告等を随時報告、相談し意見をもらっている。 市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や行政の指導を受け、サービスの向上に生かしている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して困難事例の相談やグループホーム連絡会の開催のお知らせがある。要介護認定更新の機会など、利用者の暮らしぶりや具体的なニーズを伝え連携を深めている。また、さわやか相談員の定期的な訪問があり、意見交換や利用者の相談に応じるなどしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束等の排除のための取り組みに関する理念及び方針を施設内に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。 玄関は、夜間帯を除き常に解放されている。	
			(外部評価) 管理者、職員ともに身体拘束のないケアに全力で取り組んでいる。玄関の鍵は、夜間の時間帯のみ施錠を行っている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり一緒について行くなど、見守りのケアを実践している。また、日々の業務の中で言葉で拘束することがないように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で知らせ合っている。スタッフ会議の議題として、学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 研修等で学ぶ機会がある。研修参加者は、スタッフ会議時に研修内容を報告し、職員全体で学んでいる。制度利用の入居者がおり、制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には2名以上の職員が立ち会い、理解しやすい説明を行っている。重要事項説明書により、利用料金、職員体制、その他細かな説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議等で要望や意見を聞いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。出された意見は、スタッフ会議で検討している。 (外部評価) 家族の来所時や通院時等に、利用者の様子やホームの状況を伝え、要望や意見を聞くようにしている。また、運営推進会議を事業所の行事と組み合わせるようにして家族が発言しやすい環境を整えている。出された意見や要望はスタッフ会議で話し合い、運営に反映させるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月、スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。改善活動グループに全員が参加し、それぞれの取り組みや活動報告を行っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は共に介護に携わっており、職員と話し合う時間や場面が多くコミュニケーションが良くとれている。月1回の関係事業所との合同スタッフ会議には、経営者と職員全体が参加し研修報告や意見交換が行われている。より良い運営ができるよう全員で取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入がある他、各資格手当の支給がある。経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者が、毎日顔を出し、職員の意見を直接聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。 職員相互研修に参加し、他施設に研修に出掛けたり、実習生の受け入れを行っており、他施設の良い所を取り入れている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に面接し、ご家族やご本人から話を伺い、要望等について対応している。ご本人の思いを生かしながら、ケアプランを作成し、日常生活の支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 入居後の面会時や受診の同行時等に、家族の思いを伺い、関係作りに勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用デイやサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、教えてもらったり、支えてもらったりする関係を築いている。 若いスタッフに料理の作り方を教えて頂いている。 一緒に作業したり、楽しむことで、其々の得意な事が生かせる様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に、こまめに連絡を入れ、情報の共有に勤めている。 受診同行や外出、ご本人との関わりの中で、職員と一緒にご本人を支える役割を持ってもらい、関わってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) センター方式への記入をご家族にお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も継続できるようにしている。馴染みの美容院や医院への外出、地域行事への参加等の支援を行っている。知人や友人の面会がある。 (外部評価) 以前からのかかりつけ医の受診や、美容室の利用等は家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないうに支援している。また、併設のデイ利用者との新しい馴染みができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者同士のトラブルの原因を把握し、その解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせない様にしている。 一緒に活動できる作業を用意したり、馴染みの職員が個別に話を聞き、仲立ちする事で関係を調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ターミナルケアにて、亡くなられた利用者のご家族が、お墓参りの度に立ち寄って下さる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。表情や行動から、ご本人の思いを汲み取るように努めている。出来る限り希望がかなう様に努力している。 (外部評価) センター方式を取り入れ、利用者の望む生活に関する細かな情報も得るよう努めている。面会時等に家族から聞き取ったり、利用者に関わる時間を大切にし、一対一の介護現場で利用者の思いや希望を聞き取っている。把握した内容は、「申し送りノート」に記入し、全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人の話やご家族の話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気付きをセンター方式のシートに記入したり、申し送りし、情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントを行っている。定期的なユニット会議を行い職員全員で検討して介護計画を作成している。完成した介護計画は、家族に説明し同意をもらっている。月1回のモニタリングで状況を確認するとともに、現状に応じて介護計画を見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、担当者会議等で情報を共有、記録し、介護計画の見直しに生かしている。ご本人、ご家族の意見を反映させたケアプランを作成し、見直しを行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。本人の要望等を配慮し、職員が馴染みの病院への受診を支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民政委員、ボランティアの方々に運営推進委員になってもらい行事の際には、協力がある。消防署立ち合いにて、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をされている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職 員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往 診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらって いる。 協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望す れば診てもらえる体制がある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診してお り、通院は家族対応としているが、必要に応じて職員 が対応することもある。利用者の急変時に管理者、職 員は救急車の依頼や家族連絡、準備等、慌てずに確実 かつ適切な行動がとれるよう努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連 携相談を行っている。利用者には状況の変化がある際 には、随時対応できる体制がある。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相 談しながら、医療機関に提供している。 入院中は、ご家族や病院からの情報提供を受け、ご本 人の状況を把握し、随時、カンファレンスを実施、退 院後の受け入れがスムーズに行える様に、取り計ら った。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得 て、医師及び医療機関と連携し対応している。 ご家族の希望により、ホームにて4名の看取りの経験 がある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度化、終末期のケアに対して指針を明文化してお り、マニュアルを整備し、協力医療機関や家族と連携 を図りながら支援する体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の普通救命講習に職員全員が参加している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に業所独自で避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。今後は、施設からの地域貢献についても取組んでいきたい。 (外部評価) スプリンクラーの設置や緊急連絡網の整備もされ、消防署指導のもと防災避難訓練を年2回実施している。運営推進会議を活用して近隣の方と共に訓練を実施できるような協力体制を築いている。また、災害時にはホームを地域の避難場所として提供できることを話している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、誇りを大切に丁寧な言葉かけで対応している。ご家族の了解を得て、ご本人が、長年慣れ親しんだ呼び名で呼ぶ事により、ご本人の心に寄り添い、ご本人の第二の我が家となる様に心がけている。 人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事が無い様に、配慮している。 (外部評価) 利用者の立場に立って、一人ひとりの気持ちを大切に誇りやプライバシーを損ねないよう気配りをしている。利用者の居室に入室する際には、利用者に声かけを行い、断ってから入室するよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の自己決定や希望を大切にしている。出来る限り、一人ひとりの希望や訴えをかなえられるように努めている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人の訴えや要望により、職員と1対1の時間をもち、なるべく要望がかなう様に努力している。入居者のペースで生活できるように、ゆっくり見守りし支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの理容、美容店のある人は、職員が外出の支援を行っている。要望があれば、出張美容店の訪問をしてもらっている。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、出来る人に声掛けし、一緒に料理をしてもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。 (外部評価) 職員が会話のきっかけづくりや話題を提供し、利用者同志が楽しく食事ができるよう雰囲気づくりがされている。支援の必要な利用者には、職員が横に座りゆっくり、やさしく声かけがされている。台拭きや下膳をできる利用者には無理のないよう、職員が見守りながら行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を定期的に保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。夜間帯は義歯を外してもらい、洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパットで過ごされている方もあり。改善活動として排泄班があり、それぞれの課題解決に取り組んでいる。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握している。トイレでの排泄がスムーズに行えるようマニュアルを作成し職員間で情報交換を行い、一人ひとりに応じた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、好みの飲み物を勧めている。トイレでは、身長に合わせた足台を置く事で力みやすい姿勢で排泄してもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する曜日や時間に入浴してもらっている。身長に合わせた手作り補助具により、安定した姿勢で入浴出来ている。改善活動として入浴班があり、一人ひとりの入浴マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて毎日、入浴できるような体制を整えている。安全に入浴が行えるようマニュアルを整備し、職員全体で把握している。入浴を拒む方には声かけや対応を工夫し、利用者のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、ゆっくりした時間を過ごして頂き、休息出来る様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。1週間に1度、看護師の訪問があり、指導を受けている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの力を生かし、台所仕事、洗濯畳み、掃除等の役割を担ってもらい、無理のないように支援、見守りしている。張り切って仕事をされている。毎月毎の誕生日会、季節の行事を各担当者が計画、実施し、入居者全員の交流や楽しみとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
			(外部評価) 通院帰りに買い物に寄ったり、季節の行事を企画して外出する機会を作っている。外出が困難な利用者には、ホーム周辺で外気浴をしたり、近くの公園に散歩に行く等、利用者の身体状況に配慮した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の好きな物を買われている。預かり金については、金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、自由にかけてもらっており、職員が取次ぎを行い、支援している。毎年、ご本人の写真入の年賀状をご家族や知人に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、利用者は好みの場所で過ごす事ができる。台所からも居間を見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取れる。四季おりおりの花を飾り、メダカや金魚を飼っている。壁面の飾りを手作りし季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) リビングには畳コーナーを設けており、利用者が寛ぐことができる。入居者は、大半の時間をリビングで過ごし、テレビを見たり談笑している。季節の飾りが飾られ、金魚やメダカを飼育し鑑賞することができる等、和みのある雰囲気づくりに配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士で、ソファに座りくつろげる工夫をしている。ご本人の居室と居間を自由に行き来できる。共同生活の中でストレスを感じている利用者には、個別に関わり思いを聞いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご家庭で、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等を本人に持参して頂いている。安心して、その人らしい生活が送れている。ご本人の状況や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。</p> <p>(外部評価) 備え付けのエアコンや洗面台が設置され、利用者の使い慣れたダンスやテレビ、仏壇等が持ち込まれている。壁には、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真等が飾られていて、居心地良く過ごしている様子が伺える。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を掲げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	